

【新刊情報】

株式会社オレンジページ

2025年11月20日

作家活動20周年、甲斐みのり“もの書き”の原点・京都の喫茶16店

『愛しの京都〈純喫茶〉』11/25発売

株式会社オレンジページ(東京都港区)から、今年で作家活動20周年を迎えた人気文筆家・甲斐みのりさんの最新刊『愛しの京都〈純喫茶〉』が11月25日(火)に刊行します。甲斐さんが、20代のころを過ごした古都・京都の思い出が詰まった純喫茶を中心に、今も訪れるお店、喫茶店好きの人からおすすめされたお店などから16店を選びすぐつてご紹介する京都の純喫茶本です。

【掲載店舗】



甲斐みのり

「今の自分の始まりは、
六曜社地下店の奥の席」

甲斐みのり書き下ろしの『京都の純喫茶本』

六曜社珈琲店、イノダコーヒ本店、フランソア喫茶室、
喫茶ソフレ、ぎおん石、前田珈琲(salon de 1904)、
NIWA café、築地、喫茶翡翠、喫茶チロル、静香、
COFFEE ポケット、ひめりんご、切通し進々堂、スマート珈琲店、珈琲の店 雲仙 (掲載順)



六曜社珈琲店。空いていれば必ず座る、甲斐さんお気に入りの席(左)。

40年以上前から変わらぬ、素朴な味の「ドーナツ」(右)。

甲斐みのり『愛しの京都〈純喫茶〉』(帯あり)

今と25年前の記憶が交差する京都の喫茶店のストーリー16

「今の自分の始まりは、六曜社地下店の奥の席」(本書帯より)。これまで50冊以上の書籍を執筆してきた、甲斐みのりさんの“もの書き”としての原点とも言える町、京都。今から25年前、学生時代を過ごした大阪から「京都の喫茶店に通いたい」という思いで引っ越し、さまざまな喫茶店を訪れました。仕事の合間に、休日に、1人で、友人と……京都の〈純喫茶〉は甲斐さんの生活を潤してくれる大切な場所でした。このたび、25年の時を経て、改めて甲斐さんが変わらず「愛おしく」思う京都の〈純喫茶〉を取材し、エッセイを書き下ろしました。店主との交流、好きなメニュー、変わらない佇まいを、情感たっぷりの写真とともににお届けします。

20代前半の数年間を、京都の左京区、下鴨神社のすぐ近くで過ごしました。昼と夜のアルバイトをかけもちしながら、"もの書き"という夢に向かって歩み始めた頃。週に幾度か好きな喫茶店に立ち寄ることがなによりの贅沢で、心から楽しいひとときでした（中略）それから25年の歳月が過ぎて、あらためて店主に話を伺いながら、懐かしい記憶を掘り起こしていきました。代々受け継がれる、歴史や思いやいくつもの物語は、どれも愛おしいものばかり。この本を手に京都の喫茶店を巡り、コーヒー片手にページをめくっていただければ嬉しいです。

本書「はじめに」より



- 1.イノダコーヒーのホットコーヒーといえばこのブレンド、「アラビアの真珠」
- 2.スマート珈琲店の看板メニュー「ホットケーキ」に別添えの自家製シロップをかけて。
- 3.喫茶ソフレの看板メニュー「ゼリーポンチ」。5色のゼリーの配色が美しい。
- 4.創業1934年のフランソア喫茶室。店内を飾るステンドグラスや照明が往時を忍ばせる。
- 5.平安京最古の史跡、神泉苑の3軒隣。赤と黒のツートンカラーのテントが目印の喫茶チロル。

■甲斐みのり(かい・みのり)



1976年静岡県生まれ。旅や散歩、手土産、クラシック建築やホテル、暮らしなどを主な題材に、書籍や雑誌に執筆。著書に『愛しの純喫茶』(小社)、『たべるたのしみ』『ぐらすたのしみ』(ともにミルブックス)、『「すきノート」のつくりかた』(PHP研究所)、『歩いて、食べる 京都のおいしい名建築さんぽ』(エクスナレッジ)など多数。

甲斐みのり『愛しの京都〈純喫茶〉』

2025年11月25日(火)発売 1,790円(税込)

四六判、アジロ綴じ、カバー付き、164ページ

<https://www.orangepage.net/books/1993>



<このリリースに関するお問い合わせ先>

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル16F 株式会社オレンジページ

総務企画部・広報担当 遠藤 press@orangepage.co.jp

【2/2】